

第(1)号区分【A】
定性分析法1(偏光顕微鏡法)
結果報告書

実施した分析方法 定性分析法1(偏光顕微鏡法) ※アスベスト分析マニュアル第3章

1. 分析を実施した石綿分析機関等

名 称		代表者氏名	Ⓔ
所 在 地	TEL :	FAX :	
分析者氏名		Ⓔ	

2. 分析を実施した年月日

分析実施日	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日
-------	---------------------

3. 分析結果

試料番号	偏光顕微鏡による定性分析結果		石綿以外で 確認された繊維	別添 データ No.
	石綿の 種類	推定石綿質量分率		
		無検出・検出・0.1-5%・5-50%・50-100%	有・無	
		無検出・検出・0.1-5%・5-50%・50-100%	有・無	
		無検出・検出・0.1-5%・5-50%・50-100%	有・無	
		無検出・検出・0.1-5%・5-50%・50-100%	有・無	
		無検出・検出・0.1-5%・5-50%・50-100%	有・無	
		無検出・検出・0.1-5%・5-50%・50-100%	有・無	
		無検出・検出・0.1-5%・5-50%・50-100%	有・無	
		無検出・検出・0.1-5%・5-50%・50-100%	有・無	
		無検出・検出・0.1-5%・5-50%・50-100%	有・無	
		無検出・検出・0.1-5%・5-50%・50-100%	有・無	

注1) 石綿の種類の中には、次の記号で記載している。

Chr:クリソタイル Amo:アモサイト Cro:クロシドライト Tre:トレモライト

Act:アクチノライト Ant:アンソフィライト

注2) 推定石綿質量分率の報告区分についてはJIS A 1481-1を参照のこと。

注3) 推定石綿質量分率の報告区分“検出”は、分析中に繊維が1本又は2本だけ検出されたことを示す。

注4) 『石綿以外で確認された繊維』の例としては、ロックウール、グラスウールなどの人造鉱物繊維(MMMF)、セルロース(CE)、合成有機繊維(SYN)、タルク(TA)、ウォラストナイト(WO)、ネマライト(繊維状ブルーサイト、NE)、石こう(GYP)、セピオライト(SE) などがある。

1. 実体顕微鏡のメーカー、型式

実体顕微鏡のメーカー・型式	メーカー	
	型式	
倍率		

2. 偏光顕微鏡のメーカー、型式

偏光顕微鏡のメーカー・型式	メーカー	
	型式	
コンデンサ		
対物レンズ（倍率）		
分散対物レンズ		

1. 試料調製の状況

試料調製の実施の有無	有 無
「有」の場合の調製方法	灰化（ °C 時間） 酸処理（酸種類： 濃度： ） 浮遊沈降 その他（ ）

※試料調製の実施はアスベスト分析マニュアル 1.20 版 P41 の「3.2.1. 試料調製」を指す。

2. 前処理の状況

前処理の実施の有無	有 無
「有」の場合の前処理方法	割る すりつぶす ナイフ・カッター等で削る ほぐす 灰化（ °C 時間） ホットプレート・ライター等で加熱 酸処理（酸種類： 濃度： ） その他（ ）

※前処理の実施はアスベスト分析マニュアル 1.20 版 P42 の「3.2.3. 前処理」を指す。

3. 分析条件

3.1 分析室の温度

分析室の温度(°C)	
------------	--

3.2 定性分析結果

試料性状 層の記載（色・状態）	検出されたアスベストの種類	推定質量分率
(例) 層 1 (100%) 灰色・繊維状	クリソタイル	0.1-5%
層 1 (%)		
層 2 (%)		
層 3 (%)		
層 4 (%)		
層 5 (%)		
石綿以外で確認された繊維		
コメント		

※『石綿以外で確認された繊維』の例としては、
 ロックウール、グラスウールなどの人造鉱物繊維（MMMMF）、セルロース（CE）、合成有機繊維（SYN）、タルク（TA）、
 ウォラストナイト（WO）、ネマライト（繊維状ブルーサイト、NE）、石こう（GYP）、セピオライト（SE） などがある。